

本件の対外公表時刻は
7月20日(水) 8時50分

2011年7月20日
日本銀行金融機構局

主要銀行貸出動向アンケート調査 <2011/7月>

回答期間：2011年6月10日～2011年7月8日

調査対象数：50行庫（詳細は最終頁の注1を参照）

I. 資金需要動向（質問1.～6.）

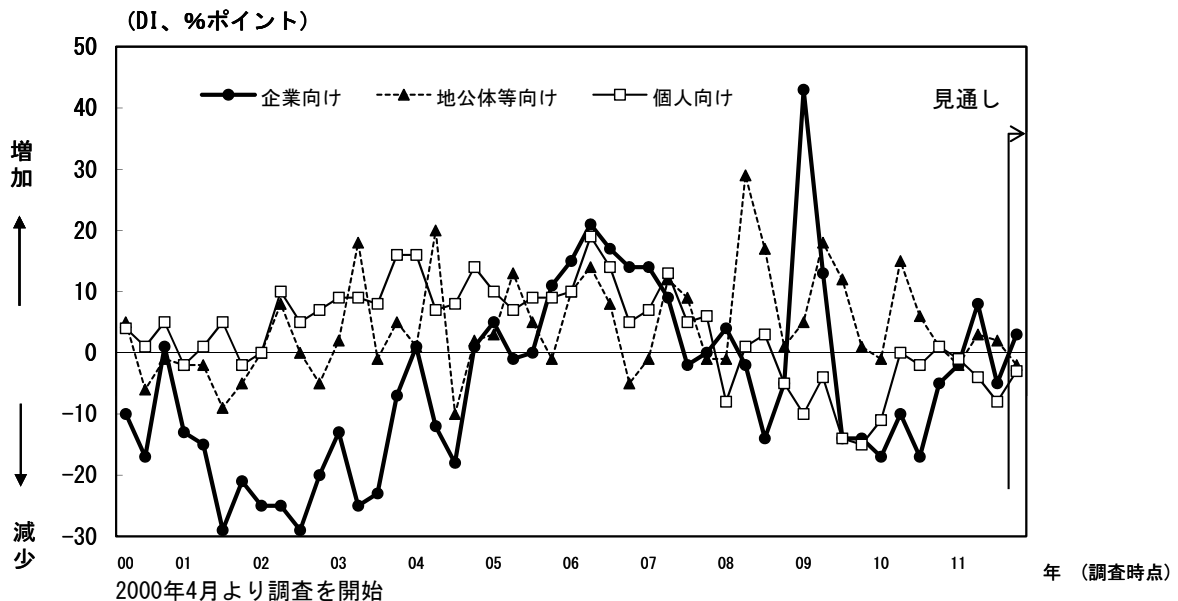
1. 過去3ヶ月間において、「企業向け」、「地公体等向け」、「個人向け」の資金需要がどのように変化したか。

	資金需要判断 D.I. (%ポイント)	(前回)
企業向け	-5	8
地公体等向け	2	3
個人向け	-8	-4

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	4	37	9	0	50
0%	8%	74%	18%	0%	
1	3	43	3	0	50
2%	6%	86%	6%	0%	
0	2	38	8	1	49
0%	4%	78%	16%	2%	

* 資金需要判断D.I. = (「増加」とした回答金融機関構成比+0.5×「やや増加」とした回答金融機関構成比) - (「減少」とした回答金融機関構成比+0.5×「やや減少」とした回答金融機関構成比)。以下、質問2.、質問4.、質問6.において同じ。

主体別資金需要判断



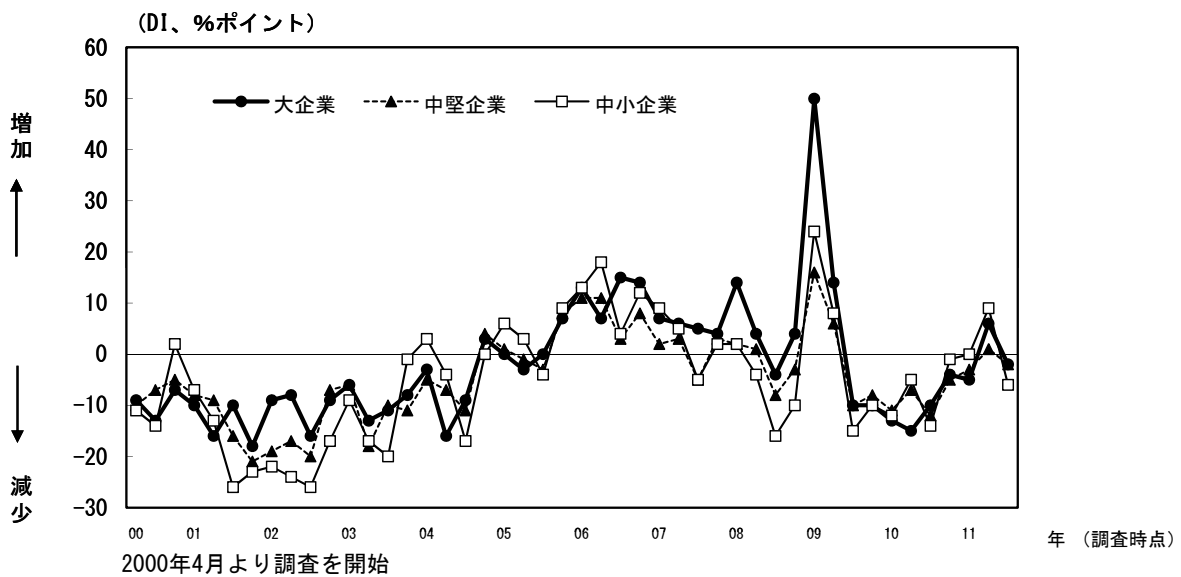
* 見通しは、質問6.を参照。

2. 「企業向け」のうち、規模別および業種別にみた資金需要の変化。

<全体>	資金需要判断 D.I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	-2	6
中堅企業向け	-2	1
中小企業向け	-6	9

回答金融機関数 (下段は構成比)					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	5	37	7	0	49
0%	10%	76%	14%	0%	
0	2	44	4	0	50
0%	4%	88%	8%	0%	
0	3	38	9	0	50
0%	6%	76%	18%	0%	

企業規模別資金需要判断<全体>



<製造業>	資金需要判断 D.I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	-2	2
中堅企業向け	0	-3
中小企業向け	-5	-4

回答金融機関数 (下段は構成比)					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	5	37	7	0	49
0%	10%	76%	14%	0%	
1	3	42	3	1	50
2%	6%	84%	6%	2%	
0	2	41	7	0	50
0%	4%	82%	14%	0%	

<非製造業>	資金需要判断 D.I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	0	5
中堅企業向け	-2	-3
中小企業向け	-6	10

回答金融機関数 (下段は構成比)					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
1	4	39	4	1	49
2%	8%	80%	8%	2%	
0	2	44	4	0	50
0%	4%	88%	8%	0%	
0	3	38	9	0	50
0%	6%	76%	18%	0%	

<建設・不動産>	資金需要判断 D.I. (%未満)	(前回)
大企業向け	-3	-5
中堅企業向け	-5	0
中小企業向け	-3	7

回答金融機関数 (下段は構成比)					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	3	41	4	1	49
0%	6%	84%	8%	2%	
0	3	41	4	2	50
0%	6%	82%	8%	4%	
0	4	39	7	0	50
0%	8%	78%	14%	0%	

<金融・保険>	資金需要判断 D.I. (%未満)	(前回)
大企業向け	-1	1
中堅企業向け	-3	2
中小企業向け	-3	5

回答金融機関数 (下段は構成比)					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	5	39	4	1	49
0%	10%	80%	8%	2%	
0	2	42	5	0	49
0%	4%	86%	10%	0%	
0	4	40	3	2	49
0%	8%	82%	6%	4%	

<その他非製造業>	資金需要判断 D.I. (%未満)	(前回)
大企業向け	1	4
中堅企業向け	-1	-2
中小企業向け	-7	6

回答金融機関数 (下段は構成比)					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
1	5	38	4	1	49
2%	10%	78%	8%	2%	
0	3	43	4	0	50
0%	6%	86%	8%	0%	
0	3	37	10	0	50
0%	6%	74%	20%	0%	

3. a. 質問2.において、全体の資金需要の変化に対する回答を「増加」あるいは「やや増加」とした場合、資金需要が増加した要因は何か(規模別にお答え下さい)。

<判断スケール> 重要<3> やや重要<2> 重要でない<1>

	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
	平均値	平均値	平均値
①売上の増加	1.20	1.50	1.33
②設備投資の拡大	1.00	1.00	1.00
③資金繰りの悪化	1.00	1.50	1.33
④手許資金の積み増し	2.40	2.50	2.00
⑤他の調達手段からのシフト	1.40	1.00	1.00
⑥貸出金利の低下	1.20	1.00	1.67
⑦その他	1.40	2.00	1.67
回答数	5	2	3

*「平均値」は、「判断スケール」をウェイトとし、ウェイト×回答金融機関構成比を合計したもの(加重平均値)。以下、質問3. b.、質問5.において同じ。

3. b. 質問2.において、全体の資金需要の変化に対する回答を「やや減少」あるいは「減少」とした場合、資金需要が減少した要因は何か（規模別にお答え下さい）。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

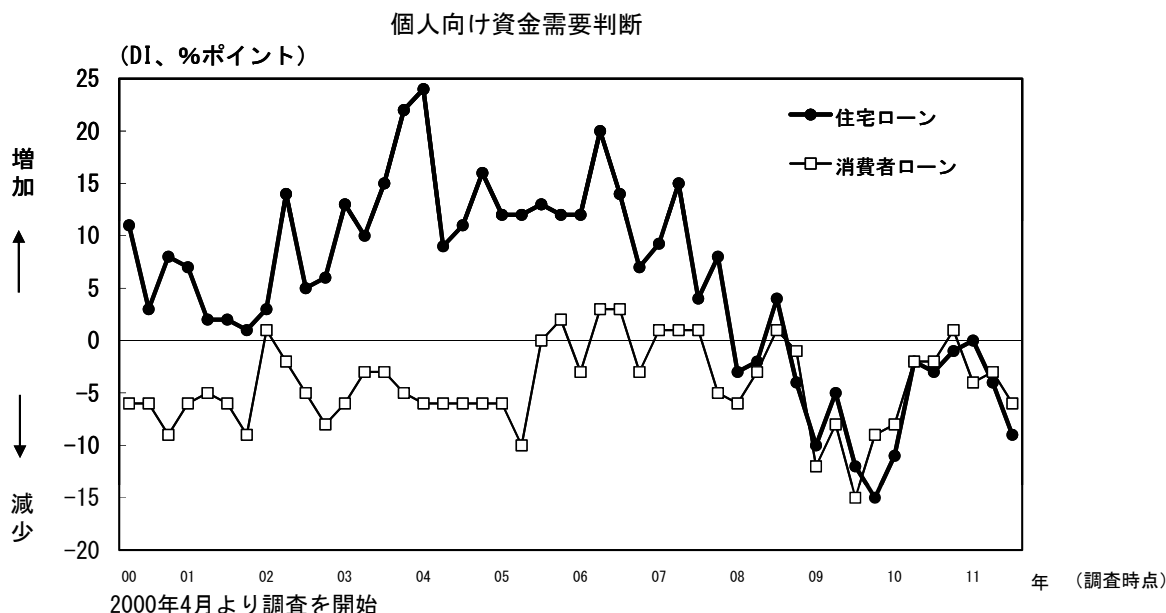
	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
	平均値	平均値	平均値
①売上の減少	1.71	1.75	2.22
②設備投資の減少	1.71	1.75	1.67
③資金繰りの好転	1.00	1.00	1.11
④手許資金の取崩し	1.43	1.75	1.33
⑤他の調達手段へのシフト	1.43	1.25	1.22
⑥貸出金利の上昇	1.14	1.00	1.00
⑦その他	1.43	1.50	1.33
回答数	7	4	9

4. 「個人向け」のうち、住宅ローン、消費者ローンの資金需要の変化。

	資金需要判断 D.I. (%ポイント)	(前回)
住宅ローン	-9	-4
消費者ローン	-6	-3

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	2	37	9	1	49
0%	4%	76%	18%	2%	
0	2	40	6	1	49
0%	4%	82%	12%	2%	

* 資金需要判断D.I.の算出方法は、質問1.の*印を参照。



5. a. 質問4.において、資金需要の変化に対する回答を「増加」あるいは「やや増加」とした場合、資金需要が増加した要因は何か。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	住宅ローン	消費者ローン
	平均値	平均値
①住宅投資の拡大	1.00	1.00
②個人消費の拡大	1.00	1.00
③個人所得の減少	1.00	1.50
④貸出金利の低下	1.50	1.50
⑤その他	1.50	1.50
回答数	2	2

* 平均値の算出方法は、質問3. a. の * 印を参照。

5. b. 質問4.において、資金需要の変化に対する回答を「やや減少」あるいは「減少」とした場合、資金需要が減少した要因は何か。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	住宅ローン	消費者ローン
	平均値	平均値
①住宅投資の減少	2.20	1.00
②個人消費の減少	1.40	2.57
③個人所得の増加	1.00	1.00
④貸出金利の上昇	1.00	1.00
⑤その他	1.40	1.14
回答数	10	7

6. 今後3ヶ月間において、「企業向け」、「地公体等向け」、「個人向け」の資金需要がどのように変化するとの見通しを持っているか。

	資金需要判断 D. I. (%ポイント)	(前回)
企業向け	3	14
地公体等向け	-2	-2
個人向け	-3	-11

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	4	45	1	0	50
0%	8%	90%	2%	0%	
0	1	46	3	0	50
0%	2%	92%	6%	0%	
0	1	44	4	0	49
0%	2%	90%	8%	0%	

* 資金需要判断D. I. の算出方法は、質問1. の * 印を参照。

Ⅱ. 貸出運営スタンス、利鞘設定の変化（質問7.～13.）

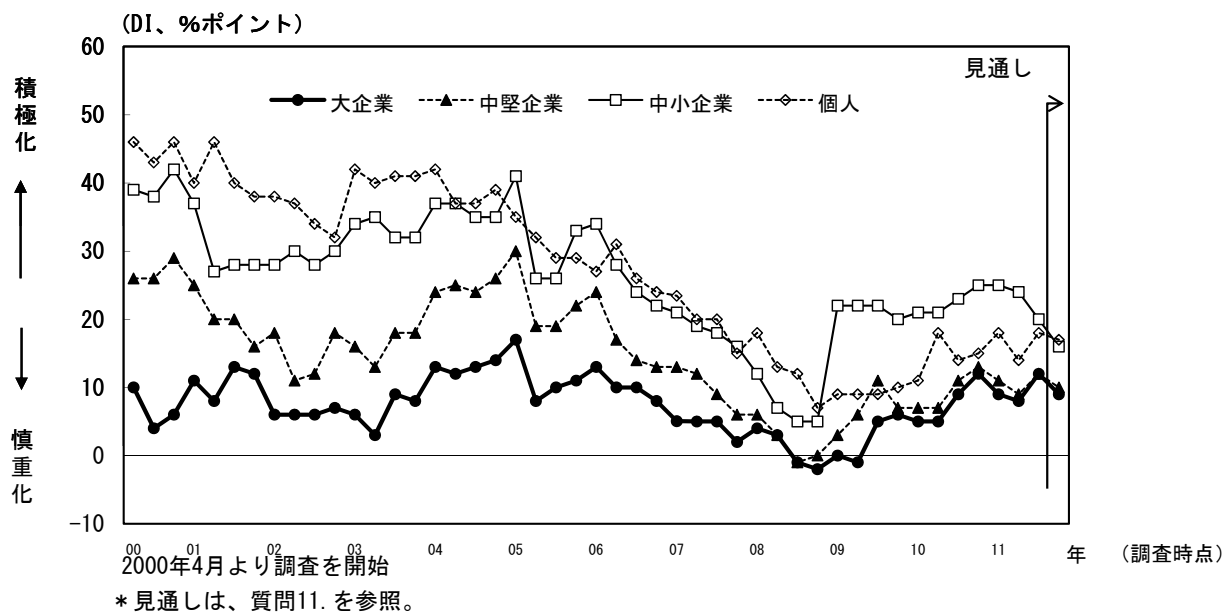
7. 過去3ヶ月間において、「企業向け（規模別）」、「個人向け」の貸出運営スタンスをどのように変化させたか。

	貸出運営スタンス D.I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	12	8
中堅企業向け	12	9
中小企業向け	20	24
個人向け	18	14

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
積極化	やや積極化	ほぼ不変	やや慎重化	慎重化	
2	8	39	0	0	49
4%	16%	80%	0%	0%	
2	8	40	0	0	50
4%	16%	80%	0%	0%	
6	8	36	0	0	50
12%	16%	72%	0%	0%	
8	2	39	0	0	49
16%	4%	80%	0%	0%	

* 貸出運営スタンスD.I. = (「積極化」とした回答金融機関構成比+0.5×「やや積極化」とした回答金融機関構成比) - (「慎重化」とした回答金融機関構成比+0.5×「やや慎重化」とした回答金融機関構成比)。以下、質問11.において同じ。

貸出運営スタンス



8. a. 質問7.において、企業向け（規模別）の貸出運営スタンスの変化に対する回答を「積極化」あるいは「やや積極化」とした場合、積極化させた要因は何か。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
	平均値	平均値	平均値
① 自行の資産内容の好転	1.10	1.20	1.14
② 経済見通しの好転	1.10	1.20	1.14
③ 特定業種・企業の業況(業績)好転	1.00	1.10	1.07
④ 他行との競合激化	2.20	2.30	2.07
⑤ 他業態との競合激化	1.00	1.00	1.00
⑥ 直接市場調達との競合激化	1.20	1.20	1.00
⑦ ALM上のリスク許容度の上昇	1.10	1.10	1.07
⑧ 成長分野への取り組み強化	2.40	2.70	2.43
⑨ その他	1.90	1.80	1.86
回答数	10	10	14

* 「平均値」は、「判断スケール」をウェイトとし、ウェイト×回答金融機関構成比を合計したもの（加重平均値）。

8. b. 質問7.において、企業向け（規模別）の貸出運営スタンスの変化に対する回答を「やや慎重化」あるいは「慎重化」とした場合、慎重化させた要因は何か。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
	平均値	平均値	平均値
① 自行の資産内容の悪化	n. a.	n. a.	n. a.
② 経済見通しの悪化	n. a.	n. a.	n. a.
③ 特定業種・企業の業況(業績)悪化	n. a.	n. a.	n. a.
④ 他行との競合緩和	n. a.	n. a.	n. a.
⑤ 他業態との競合緩和	n. a.	n. a.	n. a.
⑥ 直接市場調達との競合緩和	n. a.	n. a.	n. a.
⑦ ALM上のリスク許容度の低下	n. a.	n. a.	n. a.
⑧ その他	n. a.	n. a.	n. a.
回答数	0	0	0

9. 過去3ヶ月間において、「企業向け（規模別）」について、以下に掲げる貸出条件をどのように変化させたか。

	貸出条件設定D. I. (%ポイント)		
	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
① 信用枠（拡大＝緩和）	3	2	2
② 利鞘設定（縮小＝緩和）	6	4	4
③ 借り手の信用リスク評価	0	0	-1
④ 担保設定	0	0	0
回答数	49	50	50

* 貸出条件設定D. I. = (「緩和」とした回答金融機関構成比+0.5×「やや緩和」とした回答金融機関構成比) - (「厳格化」とした回答金融機関構成比+0.5×「やや厳格化」とした回答金融機関構成比)。以下、質問12.において同じ。

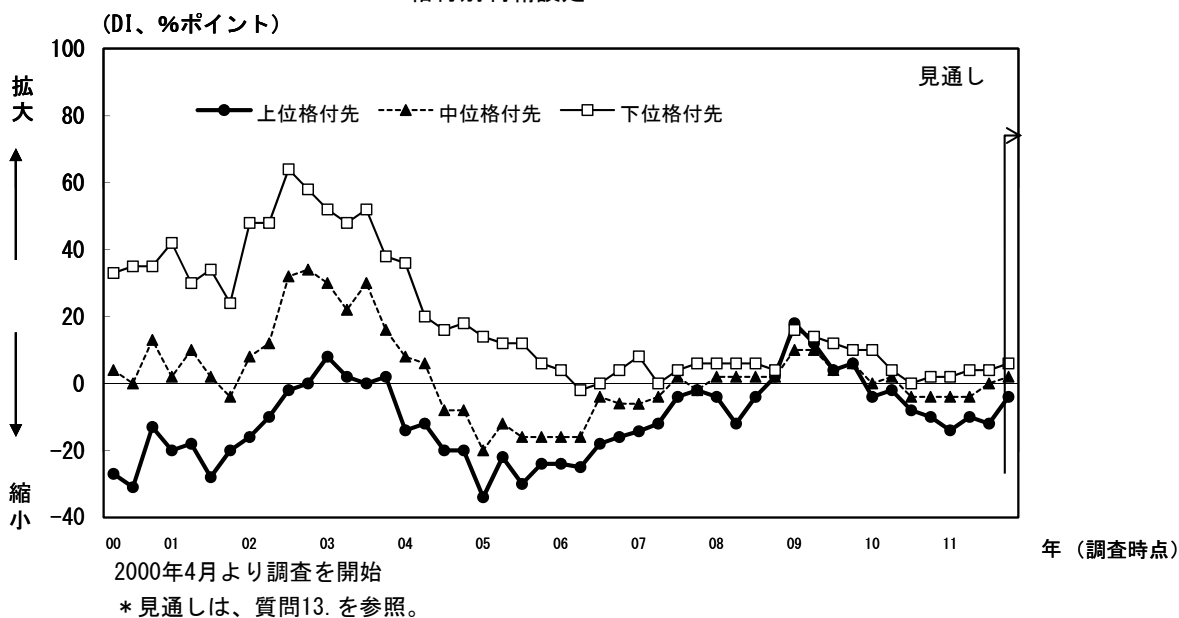
10. 過去3ヶ月間において、「企業向け」のうち、格付別（上位・中位・下位）にみた利鞘設定をどのように変化させたか。

	利鞘設定 D. I. (%ポイント)	(前回)
上位格付先	-12	-10
中位格付先	0	-4
下位格付先	4	4

回答金融機関数（下段は構成比）			合計
拡大	横這い	縮小	
1	41	7	49
2%	84%	14%	
1	47	1	49
2%	96%	2%	
2	47	0	49
4%	96%	0%	

* 利鞘設定D. I. = 「拡大」とした回答金融機関構成比 — 「縮小」とした回答金融機関構成比。以下、質問13. において同じ。

格付別利鞘設定



11. 今後3ヶ月間において、「企業向け（規模別）」、「個人向け」の貸出運営スタンスをどのように変化させる方針か。

	貸出運営スタンス D. I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	9	12
中堅企業向け	10	12
中小企業向け	16	20
個人向け	17	21

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
積極化	やや積極化	ほぼ不変	やや慎重化	慎重化	
2	5	42	0	0	49
4%	10%	86%	0%	0%	
2	6	42	0	0	50
4%	12%	84%	0%	0%	
4	8	38	0	0	50
8%	16%	76%	0%	0%	
6	5	38	0	0	49
12%	10%	78%	0%	0%	

* 貸出運営スタンスD. I. の算出方法は、質問7. の*印を参照。

12. 今後3ヶ月間において、「企業向け（規模別）」について、以下に掲げる貸出条件をどのように変化させる方針か。

	貸出条件設定D. I. (%ポイント)		
	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
①信用枠（拡大＝緩和）	2	2	2
②利鞘設定（縮小＝緩和）	1	1	1
③借り手の信用リスク評価	0	0	0
④担保設定	0	0	0
回答数	49	50	50

* 貸出条件設定D. I. の算出方法は、質問9. の*印を参照。

13. 今後3ヶ月間において、「企業向け」のうち、格付別（上位・中位・下位）にみた利鞘設定をどのように変化させる方針か。

	利鞘設定 D. I. (%ポイント)	(前回)
上位格付先	-4	-2
中位格付先	2	2
下位格付先	6	6

回答金融機関数（下段は構成比）			合計
拡大	横這い	縮小	
1	45	3	49
2%	92%	6%	
1	48	0	49
2%	98%	0%	
3	46	0	49
6%	94%	0%	

* 利鞘設定D. I. の算出方法は、質問10. の*印を参照。

注)

- 1) 本調査は、日本銀行と取引のある国内銀行および信用金庫のうち、貸出残高（2007年度期中平残）の上位50先の協力を得て実施。国内銀行および信用金庫の貸出残高全体（2009年度期中平残）に占める調査対象50先の貸出シェアは75%。
- 2) 「個人」には、個人企業は含まない。
- 3) 「地公体等向け」は、公務としての都道府県、市町村のほか、それぞれの直営事業（交通、水道、電気、ガス、病院等）を含む。
- 4) 企業規模別の分類は、以下のとおり。
 - ・「大企業」：資本金10億円以上、かつ常用従業員300人（「卸売業」、「サービス業」は100人、「小売業」、「飲食店」は50人）超の法人。
 - ・「中小企業」：資本金3億円以下または常用従業員300人以下（卸売業は資本金1億円以下または常用従業員100人以下、小売業、飲食店、サービス業は資本金5,000万円以下または常用従業員50人以下〈サービス業は100人以下〉）の法人および個人企業。
 - ・「中堅企業」：大企業、中小企業以外の法人。
- 5) 「上位格付」、「中位格付」、「下位格付」については、各行の内部格付に則して、各行の判断・分類で回答。目安としては、国内長期債格付AAA～BBB＝上位格付、BB～B＝中位格付、CCC以下＝下位格付。

以 上

照会先： 金融機構局 金融データ課 預貸金統計グループ TEL：03-3277-1581